

2021年3月期決算の概要について

【単独業績】

		当期		前期
		(2020年4月-2021年3月)	対前期	(2019年4月-2020年3月)
売上高	百万円	303,543	△67,108	370,651
営業利益	百万円	△3,342	△7,559	4,217
経常利益	百万円	△2,089	△7,643	5,554
当期純利益	百万円	△30,291	△30,180	△111
期末総資産	百万円	326,319	△8,267	334,586
期末借入金残高	百万円	73,500	△19,500	93,000
鋼材出荷量	千t/期	1,073	△220	1,293
平均価格	千円/t	283	△4	287
ニッケル価格 ^(*1)	\$/Lb	6.25	△0.06	6.31

(注)：金額については表示単位未満の端数を切り捨てております。

(*1)：ニッケル価格は LME 現物価格の三ヶ月ずらしの値を標記しております。

【主要財務指標 (%)】

		当期		前期
		(2020年4月-2021年3月)	対前期	(2019年4月-2020年3月)
ROS	(%)	△0.7	△2.2	1.5
ROA	(%)	△0.6	△2.3	1.7
自己資本比率	(%)	46.9	0.9	46.0
D/E レシオ		0.48	△0.12	0.60

【参考】原料関連諸元推移

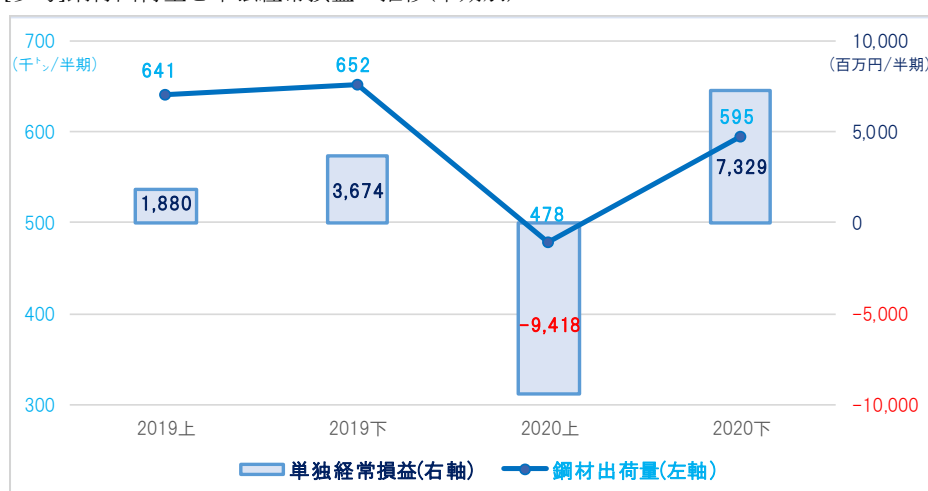
	2018年度				2019年度				2020年度			
	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期
ニッケル	6.56	6.01	5.20	5.62	5.56	7.08	6.97	5.77	5.53	6.46	7.23	7.99
フェロクロム	150	146	132	120	128	112	110	109	122	122	122	126
為替	110.1	112.5	113.9	111.2	110.9	108.4	109.8	109.9	108.6	107.2	105.5	106.9

ニッケルは LME 現物価格(\$/Lb)、クロムは南ア対日オファー価格(¢/Lb)、為替は対 US\$ (TTS、¥/\$)の値を標記しております。

1. 単独決算の内容について

- ・当会計年度においては、昨年年初以降の新型コロナウイルス感染症の全世界的感染拡大により、国内外において長期にわたる行動制限措置が執られた結果、世界的な経済活動の停滞と需要の落ち込みに直面し、ステンレス鋼産業も大きな影響を受けることとなった。
- ・そのようななかで、当社の上半期の鋼材出荷量は前年同期比を25%下回る低水準となり、設備稼働率の低下とこれに伴う製造コスト上昇により低価法適用による簿価切り下げを余儀なくされたことなどから、94億円の経常赤字となった。
- ・下半期は国内外の経済活動が急速に回復するなかで、当社の鋼材出荷量も持ち直すとともに、緊急収益改善策による固定費削減の効果もあり、低価法影響を脱却するなど、当社の収益状況は大きく改善し、73億円の経常利益を確保した。
- ・しかしながら年度通期では、鋼材出荷量は前年を220千ト下回る1,073千ト、経常損益は前年に対し77億円減益の21億円の赤字と、上半期の落ち込みを全て補うまでには至らなかった。

[参考]鋼材出荷量と単独経常損益の推移(半期別)



2. 本年度の取り組みについて

- ・ワクチン接種の進展により新型コロナウイルス影響からの脱却が期待されるものの、その終息時期については未だ見通しが得られないなかで、一方においては引き続き中国を始めとする新興国を中心にステンレス鋼の能力増強投資が続き、過剰能力状態に解消の見通しが立たないなど、今後も当社を取り巻く事業環境は、厳しい状況が続くものと考えている。
- ・かかる事業環境の下、当社は今後とも感染防止策の徹底を含む安全確保に努めたうえで、安定操業の維持に取り組むとともに、本年3月に発表した最適生産体制を完遂し、今後もお客様に高品質で付加価値の高い製品を必要なタイミングでお納めし続けることを通じて、基礎素材であるステンレス鋼の我が国最大の生産者として産業のサプライチェーンを支え、社会の負託に応えて参る所存である。

以 上 .